

新潟の塔 建立の由来

先の大戦における本県出身戦没者は、沖縄で千百十七柱、南方諸地域で四万八百四十三柱と、多くの尊い若い命が散華されました。

本県では昭和五十年（沖縄の本土復帰から三年後）、沖縄との交流が深かった日本健青会新発田支部が慰霊塔建設を提起し、御霊を慰霊するため、沖縄戦没者遺族と戦友の会が発足、悲願三十年の願いを込めて県民運動として塔建立実現に向け、沖縄に新潟県の慰霊塔を建てる会が結成されました。

建立に際し沖縄県のご厚意により、敷地は我が国唯一地上戦のあった激戦終焉の地・摩文仁に決定されました。塔本体工事は、糸満市をはじめ有志の応援をいただき、建てる会直営工事で昭和五十年十二月に完成しました。

昭和五十一年一月十日、除幕慰霊祭がふるさと新潟から運んだ雪で作ったダルマと好意の樽酒を塔に供え、沖縄戦没者遺族はじめ建てる会関係者並びに沖縄側関係者等三百余名の参列のもと厳かに挙行されました。

塔本体は、本県安田産のみかげ石で新潟米を形作り、手前には本県出土の火焰型土器を模した燈明台を配置し、ふるさと新潟との絆を表現し永遠の平和を祈念しました。建立から四十年が経過し、戦没者散華の地図入り碑文の老朽化が進み改修しました。また、戦後七十年の節目の年を迎え、戦没者のご冥福を祈ると共に平和の維持を希求し、不戦の誓い新たに後世に塔建立の経緯と平和の尊さを伝えるため、新潟の塔建立由来碑文を設置しました。

新潟の塔に関連する総ての諸施設及び改修工事は、国・県・市町村・ふるさとを想う皆様の温かいご支援による賜物であります。ここにあらためて心から深く感謝申し上げます。

平成二十七年十一月